

●正月休みが終わって10~12日の3連休はこの冬一番の寒波と強風が吹きました

里山農園では強い北風が吹き荒れて昨年夏の異常な高温に対して布張りテントが随分作業の休憩場所として役立ってきました。ところが正月早々に吹き荒れた北風のために吹き飛ばされて隣接していた収納庫小屋の屋根を飛び越えて南方に落下しました。幸いテント屋根が下になったためそれ以上に吹き飛ばされることなく、テントは少し手を加えれば修復することが可能な壊れ方でした。里山農園は北風に弱い地形で、テントが吹き飛ばされ、簡易トイレも南側に倒されという想像を超える強い風だったようです。13日農園作業日に集まった皆さんでトイレを起こし、テントをばらして片付けをしました。

●地域発表会を初めて水取公民館で開催します。

普賢寺地域は京田辺市の植物・昆虫をはじめとして残された数少ない自然の宝庫で貴重な財産です。里山の会はオオムラサキの生育やヤマトサンショウウオの発見と維持保全に取組み、打田薪炭組合のご理解で炭焼き体験講習会、そして里山農園での活動を展開して30年近くのご協力を得て調査観察活動などを継続してきました。地元の皆さん方には常に普通に感じられているかもしれないと思われませんが、私たち里山の会の調査報告の一端を展示発表できる機会を得られました。改めてご覧になって豊かであったひと昔のお話をお聞かせいただければ有難いです。冬真盛りですが一足お運びをお願いいたします。

●植物観察を計画しています。

昨年度の調査による生育結果が報告されて非常に驚いたのがユキワリイチゲでした。これまでは群生が全く見られ無かったのですが一転していました。はじめて人の手が加わっていない自然の中での開花を見ることで感激を与えてもらえると思います。この時期が開花の頃と重なればと思っています。詳しくは週刊ニュースでお知らせしたいと思いますので注目してください。観察は多分午前中の時間になると思います。集合はJR加茂駅の予定です。

●木津川出張所長への将棋頭型竹蛇籠水制の設置について申し入れを行いました

1. 竹蛇籠製作の技術継承と普及を図る
2. 設置による砂州の地形変化を計測する
3. 天然記念物イタセンパラの復元を目指して試行する
4. 砂州の複列化の促進と旧路への導水を目指す
5. 設置予定日 2026年2月7・8日
6. 木津川出張所への協力要請内容 昨年度と同程度
 - 1) 栗石の提供と運び込み及び分配配布 栗石 12t

自然を大切にする仲間の輪を大きくする
(発足以来掲げてきた活動スローガン)

普賢寺(水取)は自然の宝の山

水取の皆さんへ

里山の会からの呼びかけです。

水取公民館で地域説明会を開催いたします。ご参加ください。

NPO やましろ里山の会は結成以来30年を迎える事が出来ました。里山農園(水取)で野菜栽培や自然観察調査など、水取の皆さんのご協力とご理解をいただいで活動を続けられて来ました。大変感謝しています。

このたびは私たちの得られた**成果発表展示会**を開催させていただきますので、公私ご多忙のところでしょうか一足ご足労をいただければと、ご案内をさせて頂きました。

2026年1月25日(日)10時から15時

展 示 物

キンラン キンラン ムヨウラン ササユリ シャジクモ
ウバユリ ミドリシジミ タマムシ ルリタテハ アサギマダラ
オオムラサキ クワガタムシ カブトムシ ルリタテハ
ヤマトサンショウウオ イノシシ アライグマ

活動紹介ポスター 10枚


シュタイナー 中学校生の観察記録発表

普賢寺での実績

尾根筋ハイキングコース 国蝶オオムラサキの発見
京田辺の最高峰 千鈿山311m ヤマトサンショウウオの発見
白土山周遊歩道
木津川でイタセンパラ(特別天然記念物)の復活を取組中
木津川で中壘牛や竹蛇籠で魚の棲み処づくり 5群16基の設置
打田で木炭(炭焼き作業)の技術向上の取組

主催 NPO やましろ里山の会
事務所 京田辺市田辺深田15
0774-644183 fddb257@yahoo.co.jp

この取り組みの連絡先
一休が丘 水取出身 大村幸正さんへお願いします 080-1454-8139



- 2) 流失防止杭の提供 (末口 150mm 長さ 2500mm) 数=45 本
- 3) 杭打ち込み用ユンボの提供 運転手付き
- 4) 設置位置確定日 2026 年 1 月 29 日
- 5) 竹蛇籠の製作 里山の会が実施 6m物 6 本~12 本

所長の返答 ●草刈り予算も大いに減額されて、住民の要望に応えられなくなりつつある
●要望は例年通りであると聞いた。しかし年度末なので次年度予算になるかも
●流れ橋で樹木伐採が公募で行われた 伐採樹木は受注業者の持ち物とする
●草刈り予算は物価や人件費が上昇しているが金額が前年度並みである。実質減額になる
※ 話をお聞きして現場では大変厳しい現状だと受け止めた(山村)

●結成 30 周年事業を取り組むにあたって (素案) 参考に 1 月 14 日の事務局会議に提案 AI で作成

1996 年、天井川である三川(天津神川・馬坂川・防賀川)の撤廃の動きが高まり、防賀川の植生調査が実施された。調査は村田源先生が担当し、湯川幸子さんをはじめとする主婦の皆さんが協力した。この活動の中で、内陸部に生息するトキワススキが興戸駅で発見され、大きな話題となった。同じ頃、市役所前(旧計量場の車庫)ではシロワレモコウが見つかり、その保全が求められた。

こうした動きを受け、13 人の植物愛好家の呼びかけによって約 1 年後に「やましろ里山の会」が結成され、記念事業として甘南備山での自然観察会が開催された。その記録は創刊号『山城の自然』にまとめられ、表紙にはトキワススキが飾られた。

その後、木津川や里山の植物観察を中心に散策が続けられた。木津川堤防では、オオマツヨイグサが一面に咲き誇る光景に感動したが、直後に除草車により刈り取られ、景観が失われる出来事もあった。ツルボやオニユリも同様の運命をたどったため、建設省木津川出張所に「種ができてから刈り取る」よう申し入れ、受け入れられた。

これを契機に木津川の植物調査が本格化し、加茂から三川合流部までの 3 年間にわたる有志調査で多くの絶滅危惧種が確認され、採取・保存が行われた。採取した植物は押し花にして乾燥させ、村田先生の紹介により亀岡の花明山植物園 や京都大学へ送付した。標本 3250 点は木津川流域センターに保存された。

発足 5 年目には、会員が撮影した写真を持ち寄り、『木津川はなごよみ』が木津川出張所の支援で発行された。800 冊が 2 度印刷され、表紙は中西夫妻によるツルボの写真であった。当時お世話になった白波瀬氏は、2017 年に淀川河川事務所副所長として再び当地に赴任された。

1995 年には阪神淡路大震災が発生し、全国から集まったボランティアが活躍した。こうした社会の流れの中で 1998 年に NPO 法が成立し、会は約 5 年間任意団体として活動を続けた後、2000 年頃から NPO 化に向けて準備を開始。2001 年 12 月、京都府 51 番目の NPO 法人として認証された。当時の木津川出張所長・加藤哲氏の強い後押しが大きな力となった。

NPO 資格を得たことで、国交省・京都府・市町村・教育委員会などへの提案や後援依頼が円滑になった一方、任意団体時代の自由さとは異なり、定款に基づく組織的活動や記録作成が求められ、負担を感じて離れる人も生まれた。それでも困難を乗り越え、活動は 20 年、そして 30 年へと続いてきた。

現在、里山の会の機材資産は約 1300 万円に達する。結成当初は年間 30 回の活動が限度で「多すぎる」との反対もあったが、「自然を大切に作る仲間の輪を大きくする」という原点に立ち返りながら活動を続けてきたことが力となった。週刊ニュースは 1118 号、里山講演会は春秋合わせて 50 回、機関誌『里山の自然』はこの秋 59 号に到達し、30 年の歩みを記録した。

若い頃の力任せの作業から、安全を重視した活動へと変化し、新しい担い手も経験を積み始めている。

今、発足時の心を改めてつかみ直し、NPO として財政規模を拡大し、得られた利益を私的に配分するのではなく、社会へ還元する「社会還元化」を本格的に進める段階に来ている。30 年を経て自主財源確立の扉が開き、特定非営利活動法人としての原点を再確認する時期に差しかった。

今日、営利企業でさえ環境問題や社会課題への無関心は許されない時代である。社会貢献の姿勢が評価される一方、ボランティア団体は活動が活発になるほど資金が必要となり、善意だけでは継続が難しい。NPO は必要経費の調達と同時に、社会貢献活動のための資金(利益)を獲得する努力も求められている。

30 周年を契機に、「自然を大切に作る仲間の輪を大きくする」という大目標に近づくため、観察調査活動や体験活動のさらなる充実と、社会還元資金の獲得という二正面作戦に挑む新たな段階に到達している。 2026 年 1 月 14 日作成